
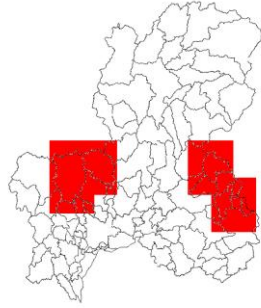


ハコネハナゼキショウ	<i>Tofieldia coccinea</i> Richards. var. <i>gracilis</i> (Franch. et Sav.) T.Shimizu	絶滅危惧 I 類
		ユリ科
選定理由	生育地が少ないうえ、個体数も極めて少ない。	写真(高橋弘) 
形態の特徴	葉の長さは10cmから15cmに達する。花茎の長さは10-20cm。花被片は長さ2-3mm、白色。花柄は開出し、長さ3-5mm。花がチャボゼキショウより疎らにつくため、花柄は開花時でもよく見える。蒴果は下を向く。	
生態的特徴	冷温帯のやや湿った岩場に生育する。花期は5-6月。	
分布状況	岐阜県では美濃地方に分布する。	
減少要因	開発による生育地の破壊。	
保全対策	生息地の保全。	
特記事項		
参考文献		
		

文責: 高橋弘